

5月中旬頃にみられるブロッコリー病害



1. ブロッコリー萎黄病

学術的には「キャベツ萎黄病」ですが、ブロッコリー、カリフラワー、ハボタンにも発生します。

下位葉から黄化、落葉します。黄化は株の片側や、葉の主脈を境にした片側に発生する傾向があり、片側の生育が阻害され奇形になることがあります。

地際の褐変亀裂部分にフザリウム菌の分生子を確認できます。



2. ブロッコリー株腐病

下位葉から黄化、落葉し、生育不良になります。茎の地際は褐変しくびれます。地際付近の根にはリゾクトニア菌の菌糸がまとわりついていました。

リゾクトニア菌は地際から侵入する特徴があり、地上部に症状が出て、それは地際より上のものであり、地下部の根は多く残存していることがあります。



3. ブロッコリー根朽病

学術的には「キャベツ根朽病」ですがブロッコリー、カリフラワーにも発生します。

地際の茎が褐変してくびれ、木質部だけが繊維状になって残ります。

病原菌はフォーマ属菌であり、被害組織中に、ほぼ球形の分生子殻を形成します。分生子殻頂部の開口から、無色単細胞の分生子の塊が「蛇玉」のように噴出するのが観察できます。